

都市・防災・環境部会 審議状況

5月 9日 (木) 開催
5月23日 (木) 開催
7月 1日 (月) 開催

<快適で魅力ある住環境>

多様な人と人のつながり (まちのあり方)

発言内容

- ① ワンルームマンションに住む若年層や外国人は、町会などのコミュニティに属さない人が多いので、地域とつながる支援があると良い。
- ② 相続などで住宅が細分化されることで、単身者の住宅が増え、高齢者の孤独死も増加しているので、地域の見守りなどの支援が必要である。
- ③ 地方から東京にきて初めて住むまちが中野という人も多い。外国人にも日本に来て初めて住むまちが中野というイメージ戦略も良い。
- ④ 若い世代が結婚し、子育て世帯になってもずっと住み続けたいと思えるまちづくりをすると良い。
- ④ 若い世代を呼び込むまちづくりをするといい。
- ④ 子育て世帯を増やすまちづくりをするといい。

答申のイメージ

- ① 単身世帯の若年層や外国人が、地域コミュニティに参加している。
- ② 一人暮らしの高齢者が、地域で孤立せずに暮らしている。
- ③ 国籍や文化の違いのある人が地域に溶け込んで、来日した外国人が生き生きと新生活を始めている。
- ④ 結婚し、子どもを持って、ずっと住み続けたいと思えるまちとなっている。

区民と行政の協働

発言内容

- ① 中野区は公園が少ないので、空家を取り壊してポケットパークにするなど、地域の人が集まって顔を合わせられる場に活用できると良い。
- ① 空家を空地にするといろいろと活用できるが、地域で相談して対応していくことも考えられる。
- ① 地域のために貸し出してもいいという空家について、若い世代に安く貸し出すなど、有効に活用してほしい。
- ① 空家をキッズルームや古民家にするなど活用できるといい。
- ② 地区計画によって、事業所などすでに立っている建物が建て替えできない問題がある。区民との協働によって都市計画を見直していい。
- ③ 道路や公園などの公共基盤が、区民が参加して管理して運営できているといい。
- ④ 区民と行政の間の情報共有が密にできているといい。
- ④ 区だけでなく、住民も一緒にまちづくりに参加している。

答申のイメージ

- ① 地域のコミュニティの場として、空家や空き地が有効活用されている
- ② にぎわいのある土地利用を実現するために、区民が身近な地区のまちづくりに積極的に参加している。
- ③ 道路や公園などの公共基盤が、地域や民間団体が管理に協力して適切に管理されている。
- ④ 行政が情報を発信し、区民と情報共有しながら一緒にまちづくりをしている。

発言内容

新しい行動と価値の創出

- ① フィルムコミッションなど、新しい活動ができる空間があると良い。
- ② 区の予算にも限りがあるので、実証実験などの手法を取り入れるのも良い。
- ③ 区民がまちづくりに参加できる仕組みがあると良い。
(例えば、中野通りの桜を誕生日などに植樹できるなど、町会などの団体としての参加だけでなく個人単体でもアクションが起こせるような仕組み)

答申のイメージ

- ① 中野の景観や空間を活用し、新たな行動が生まれている。
- ② 実証実験などの新しい手法を取り入れ、まちづくりを進めている。
- ③ 一人でも、気軽に、まちづくりに参加できる場や環境が整っている。

発言内容

行政がすべきこと

- ① 中野区は道路が狭く、セットバックしても電柱が残ってしまっていて歩道が狭いままなので、電線の地中化が必要である。
- ① 快適で魅力ある住環境として、安心安全に歩ける歩行者空間が必要である。
- ① 中野区は道路が狭いので、安全に歩ける道路が必要である。
- ② 中野区は公園が少ない。子育て世帯に定住を促すには公園の拡充が必要である。
- ② 遊具のある公園もいいが、なにもない広場だけの公園もあるといい。
- ② 公園が地域の人の交流の場になるといい。
- ② 緑あふれる公園にしてほしい
- ③ 住みたい、住み続けたいまちとしては、交通機関へのアクセスなど、移動の充実が必要である。
- ③ 南北の交通の便が良くなるといい。
- ④ 開発により変化していくことばかりではなく今の中野らしさを守っていくことも大切である。

答申のイメージ

- ① 無電柱化が進み、安心・安全な歩行者空間が確保されている。
- ② 公園がそれぞれの個性を持ち、様々な形で利用され、いつも子どもや親子でにぎわい、地域の魅力となっている。
- ③ 誰もが、気軽に移動することができる交通ネットワークが形成されている。
- ④ 変わるものと変わらないものが共存し、中野らしさが形作られている。

<世界に開かれた都市活動とにぎわいの拠点>

多様な人と人のつながり (まちのあり方)

発言内容

- ① 中野の駅前には多くの飲食店があり、外国人の来訪者も増えている。選択肢がたくさんあるというイメージを大事にする必要がある。
- ① 中野にはサブカルだけでなく伝統文化もある。一つに絞られない、可能性が高いまちとしてのイメージを大切にすることが必要。

答申のイメージ

- ① 世界中の人が訪れ、サブカルチャー、飲食街、伝統文化など、中野ならではの多彩な魅力を楽しんでいる。

区民と行政の協働

発言内容

- ① 中野には、様々な価値観を受け入れる懐の広さがある。(ex.まんだらけ)ほっとするとか、楽しいことがあるとか、今あるまちのイメージを大事にする必要がある。

答申のイメージ

- ① 多様な文化や価値観が集まることで、まちの活気となっている。

発言内容

新しい行動と価値の創出

- ① 四季の都市には、麒麟などの世界的なメーカーがあり、明治大学や帝京平成大学には国際的な学部がある。つなげるネットワークが必要である。
- ① 中野で芸能・芸術活動をしている人がたくさんいるが、ネットワークがうまくいっていない。一体となって世界に発信していけるつながりが必要である。
- ② 新しいサンブラザも、小さな演劇などでもできるような、一緒に育っていける場としての活用がされると良い。

答申のイメージ

- ① 企業や大学、芸能・芸術活動等の多様な主体がつながることで、新しい魅力が創出され、世界に発信されている。
- ② 最先端の文化活動や商業活動と、区民の身近な文化活動が共存している。

発言内容

行政がすべきこと

- ① 中野では近年、病院などの拠点の大幅増など強みがたくさんあるが、他の地域に知られていないので、多様なツールを使った広報の強化が必要である。
- ① 駅前の再開発により中野の魅力が向上し、知名度がアップして人口が増えると良い。
- ② 中野駅の混雑を解消し、バリアフリー化をすすめてほしい。

答申のイメージ

- ① 中野の魅力や出来事が広く発信され、区外の人々に伝わっている。
- ② 中野駅では西口の新設等により、あらゆる人が快適に行き来している。

<地域のにぎわいの創出・再生>

多様な人と人のつながり (まちのあり方)

発言内容

- ① 今、地縁や地場のつながりを求められているので、地域で人がつながれる仕組みが必要である。
- ② 区民活動センターの空きスペースなどを利用して、町会でコーヒーサロンを開いたり集まれる場所を提供している。行政に頼るだけでなく、地域住民としても賑わいの創出のためにできることを考えないといけない。

発言内容

新しい行動と価値の創出

- ① 住むところ、働くところ以外の場として、賑わいと繋がりサードプレイスの魅力を創出できるといい。
- ② 鉄道整備に合わせて、西武新宿線の各駅ごとにエリアマネジメントがなされるといい。

答申のイメージ

- ① いつでも誰でも、新たに地域コミュニティに参加することができる。
- ② 区民の主体的な活動で、地域のにぎわい空間が生まれている。

答申のイメージ

- ① 職住のみならず、賑わいとつながりの場が生まれている。
- ② 西武新宿線沿線では、鉄道整備にあわせ地域の特性に合わせたまちづくりが進められている。

区民と行政の協働

発言内容

- ① 地域の益踊りなど、地域で継続していることを区と一緒にできると良い。
- ② 坂が多い地域などがある。高齢者の近くに、すぐ買い物に行ける商店街や商店が必要である。
- ③ 商店はものを売るだけでなく、そこで話をするとか、子どもが買い物を通して、最初に社会に触れる体験ができる場でもある。商店街の活性化が必要である。
- ④ 空き家を活用しプレイパークなどを作って、高齢者も子どもも集まれるにぎわいの場にできると良い。
- ④ 空き店舗は、ギャラリーや雨宿りできる場所など、地域に合った活用のされ方をすると良い。
- ⑤ 西武新宿線が地下化されたあとの上部活用として、カフェや飲食店もある遊歩道の様なにぎわいの場になるといい。

発言内容

行政がすべきこと

- ① 道路が狭くて資材を搬入できず建て替えられない地域もあるので、狭隘道路の拡幅が必要である。
- ② 西武新宿線沿線では、バス通りにもかかわらず、道が狭く、朝など踏切が開かず、不便さを感じている住民が多いので、解決する必要がある。
- ② 線路があると、地域が遮断されてしまうので、地下化の推進が必要である。
- ③ 中野区は縦に長く、同じ中野区に住んでいたとしても地域によって特徴が違うので、それぞれの地域に合ったまちづくりが必要である。
- ③ 地域で活動している団体は、地域の特性もよく知っているのでよく話を聞く必要がある。
- ④ 東中野駅、中野坂上駅、新中野駅などにもぎわいが生まれ、まちの活性化が進むといい。

答申のイメージ

- ① 区は、区民と一体となって地域のにぎわいを生み出している。
- ② 歩いて買い物に行ける身近な商店街。
- ③ 区民の交流と、子どもの社会体験の場としての商店街。
- ④ 地域のにぎわいの場所として、空き家や空き店舗が有効活用されている。
- ⑤ 地域の特性を活かし、地域の意見等を聞きながら、西武新宿線の連続立体交差事業に伴ってできたスペースの有効活用の検討が進んでいる。

答申のイメージ

- ① 区内の道路ネットワークが構築され、交通の円滑性が向上している。
- ② 西武新宿線沿線では、西武新宿線の連続立体交差事業や交差する都市計画道路の整備が進み、交通の利便性が向上している。
- ③ 地域の特徴や歴史、人のつながりが、まちづくりに生かされている。
- ④ 東中野駅、中野坂上駅、新中野駅などではにぎわいのあるまちづくりが進んでいる。

<災害に強い都市>

多様な人と人のつながり 発言内容 (まちのあり方)

- ① 災害時には地域のつながりが重要なので、コミュニティの強化に力を入れる必要がある。
- ② 有事の際、区民が発電機や防災資機材を活用して、自分たちで避難所運営できるよう地域の防災力を強化する必要がある。
- ③ 昨今、在宅避難が呼びかけられている。在宅避難者のケア対策を考える必要がある。
- ③ コミュニティが弱い地域での、被災時のネットワークづくりを考える必要がある。

答申のイメージ

- ① 区民が日常から地域の繋がりをもち、災害時にも互いに支えあっている。
- ② 災害時には、地域の住民が協力して防災拠点の運営やネットワークを構築している。
- ③ 被災時であっても、避難所にいる人も在宅避難中の人も、中野にいるすべての区民がネットワークでつながり相互に助け合う体制が整っている。

区民と行政の協働 発言内容

- ① 風間人口が増加し、町会中心の防災情報発信では網羅できなくなってきた。集合住宅が増え町会未加入者も多いので、情報伝達の強化が必要である。
- ① 町会未加入者が増え、風間人口も増加しているため、デジタルサイネージの活用など、情報伝達の強化が必要。
- ② 災害が起きたとき、食糧の確保や避難所運営も全て行政がやってくれると思えば災害にまったく備えていない人がまだいる。防災に対する現実的な情報提供を強化する必要がある。
- ② 災害に備えて、飲み水の備蓄など防災に対する備えをするようもっと区民に広報する必要がある。
- ③ 災害時、区が協定団体との連携がきちんととれるよう事前に体制を整えておくことが必要である。
- ④ 同じ区内でも地域特性が違うので、防災対策についても地域ごとに考える必要がある。
- ⑤ 避難時や避難所などでの要支援者に配慮のある防災対策が必要である。
- ⑥ 旧耐震基準の古い建物が多い。耐震診断の助成活用PRが必要である。
- ⑦ 避難所によって機材などの配備に差があるので整備を進めてほしいし、また、地域で防災に携わる人の育成も継続的に行っていって欲しい。

答申のイメージ

- ① 災害発生時、中野区にいるすべての人が正確に必要な情報を受け取れている。
- ② 一人一人が防災に対する正しい認識を持ち、自発的に防災に対する備えを行っている。
- ③ 災害発生時、様々な団体と区が連携し適切な支援が行われている。
- ④ 地域の特性を把握し、地域ごとにきめ細かい防災対策が構築されている。
- ⑤ 災害が発生しても、要支援者が安心して安全に避難できる体制が構築されている。
- ⑥ 区民が住まいへの耐震対策をおこなっている。
- ⑦ 地域の防災を支える人材の育成が行われている。

発言内容 新しい行動と価値の創出

答申のイメージ

- ① 防災公園を増やしてほしい。
- ① 区の再開発でビルやマンションが増えるので、避難できる公園を増やしてほしい。
- ② 水害対策の促進、治水対策の強化が必要である。
- ③ 被災時のブラックアウトが懸念されている。電力の自立性とライフラインの確保が不可欠である。
- ③ ライフラインが震災時でも、途絶えない対策が必要である。
- ③ 地域危険度が高い地域には消防署の設置も検討してほしい。
- ④ 気候変動による熱中症への対策が必要である。
- ⑤ 防災のために木造住宅密集地域の道路拡幅などを今以上に進めてほしい。
- ⑥ 災害時、区が迅速に正確な情報を収集し、区民がその情報を受け取れるようにしてほしい。
- ⑦ 土地の高度利用などによって生じた空間を有効活用し防災などの都市機能を向上させて欲しい。

発言内容 行政がすべきこと

答申のイメージ

- ① 公園の整備や防災機能が充実し、まち全体の安全性が高まっている。
- ② ゲリラ豪雨や台風などが発生しても、水害に強いまちになっている。
- ③ 被災時でも、ライフラインが途絶えないまちになっている。
- ④ 環境等の変化に応じて発生する新たな災害に対する対策が行われている。
- ⑤ 道路拡幅整備が進み、災害時の火災の延焼防止や緊急車両の通行確保などが行われている。
- ⑥ 災害時には、区が拠点となり迅速に情報を収集し発信できる準備ができてる。
- ⑦ 土地の高度利用などによって生じた空間を有効活用し防災などの都市機能が向上している。

<地球にやさしいライフスタイル>

多様な人と人のつながり (まちのあり方)

発言内容

発言内容

新しい行動と価値の創出

- ① 環境コミュニティビジネスが展開できるといい。

答申のイメージ

答申のイメージ

- ① 地域コミュニティが主体となって、地域の環境問題の解決に取り組んでいる。

区民と行政の協働

発言内容

発言内容

行政がすべきこと

- ① 多摩地域などの杉材購入による森林保全活動やグリーン購入を行うなど、CO₂を排出しても削減する対策を活用して、全体としてのCO₂を削減できる取り組みをする必要がある。
- ② コンポストの購入助成をしてほしい。
- ② 区でフル電力自動車を導入してほしい。(災害時には電力供給もできる)
- ③ ごみを減らす区民一人一人への啓発強化が必要。
- ③ ごみ排出に関する意識啓発をしてほしい。
- ④ レンタサイクルの設置や区民による公園の花壇づくりや自家用車の抑制など、区民と行政が一体となってエコ活動を行ってほしい。
- ⑤ 建て替えによる緑化や区民によるみどりを育てる取り組みなど、環境保全への意識が暮らしの中に浸透するといいい。

- ① ソーラーシステムへの補助金の活用を強化してほしい。
- ② まちの景観的にも、ごみは戸別収集ではなく、集団回収にしてほしい。

答申のイメージ

答申のイメージ

- ① 行政も区民も、グリーン購入などを積極的に活用し低炭素社会が実現されている。
- ② 区民が環境負荷の少ない生活を送っている。
- ③ 持続可能な社会を意識し、区民が積極にごみの減量を行っている。
- ④ 区と区民が一体となって、エコ活動を行っている。
- ⑤ みどりを育て増やす取り組みが促進し、区民の中に環境への意識が根づいている。

- ① 区民が環境に配慮し、自家発電を行うなど環境負荷をかけない生活を実現している。
- ② ごみが適正に収集され、まちの景観が保たれている。